

ふれあい情報 速報

■発行 日本高齢・退職者団体連合(退職者連合)
■発行人 羽山 治美 (編集人) 林 道寛
■連絡先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11
Tel:03-5295-0507 Fax:03-5295-0541

<e-mail>tais yokusharengo@sv.rengo-net.or.jp
<ホームページ><http://trjtuc-rengo.jp>

2014年 5月13日(火) 第179号

(速報の記事・写真の転載は自由。データが必要な場合は送付可)

写真右は議面であいさつする羽山事務局長(中央左)と平川局長(中央右)。5月14日



委員会が開かれる国会議事室。

傍聴席の熱気が必要 (山井議員)

行動開始にあたって衆議院議員面会所に集合した傍聴参加者を前に連合の平川則男生活福祉局長、退職者連合の羽山治美事務局長がそれぞれあいさつ。民主党からは山井和則衆議院議員が駆け付けて「傍聴席の熱気が必要だ。私たちが頑張る」と連携した取り組みの意義を強調しました。

委員会では民主党の柚木道義衆議院議員、長妻昭衆議院議員、中根康浩衆議院議員、山井和則衆議院議員の4委員が、介護保険給付から要支援を切り離すのは認知症予防対策に逆行するものだと厚労省・与党を厳しく追及しました。

要支援打ち切り考え直せ (長妻議員)

長妻昭議員は質問の冒頭、「本日も傍聴席には多くの当事者、関係者が来ている。国民も注視している。今回の法案で要支援の打ち切りで介護給付がなくなり、地方の事業になる。認知症予防対策という最も重要なところが手薄になってしまう。来年4月以降、かなりの混乱が起きる恐れがある。要支援打ち切りを考え直してほしい」と田村厚労大臣にせまりました。次回は、5月14日(水)。午後からの委員会には、安倍晋三総理が出席予定。



柚木道義議員



中根康浩議員



長妻昭議員



山井和則議員

質問に立った民主党各委員。(発言順)

■第2回傍聴行動報告 <衆議院厚生労働委員会>

要支援切りで認知症予防対策が手薄に

民主党が介護保険制度改悪反対で追及

退職者連合は、五月九日午前九時から二回目となる衆議院厚生労働委傍聴行動を実施しました。行動には退職者連合関係二十五名、連合関係九名、日本介護クラフトユニオン(UAゼンセン)関係七名の合計四十一名が参加し、現退一致で取り組まれました。

お達者だより
南から北から

【石川県】竹林間伐ボランティア

今年も元気！おまけは、春の味覚

元気な高齢者活動に取り組む石川県退職者連合の里山と里海を守る「竹林間伐作業」が今年も始まりました。2008年にスタートしてから21回目となります。

今年初めての作業には、会員43名が参加。4月24日(木)に加賀市の橋立自然公園(石川県と福井県境)で行われました。



参加者は全員ヘルメット着用。竹林で活動する皆さん。



作業は、竹の根元からの切り倒しから始まる。



作業に当たっての諸注意等に聞き入る参加者。
(4月24日、加賀市橋立自然公園)

ノコナタを手に密集した竹林へ

好天气にめぐまれ、参加者は橋立自然公園の中の広場に集合。初めに県退職者連合の宮下直之会長が主催者あいさつ。続いて竹林の間伐作業に当たっての諸注意などの説明がありました。参加者は全員ヘルメットを着用。3~4名が1チームとなり竹のこぎりやナタを持って、竹林へ向けていざ出陣。

竹林の中は30センチ~50センチ間隔で密集状態。作業内容は①根元から切り倒し②切った竹を2m間隔で裁断③枝打ち④竹積みの繰り返しです。

作業を始めると皆さんは熱中。少々安全面でヒヤリハットの場面もありましたが、約2時間で無事に終了しました。

大活躍の竹の子掘り部隊

最後になりますが竹の子もたくさん出ていて竹の子掘り部隊も大活躍しました。ちなみに竹の子掘りも立派な竹林間伐！？参加者全員が春の味覚を持ち帰りました。

次回の実施に期待をしながら、楽しい時間(本当はきつい)を過ごしました。

<報告者>石川県退職者連合

船塚 俊克事務局長

参加者全員が春の味覚を持ち帰りました。